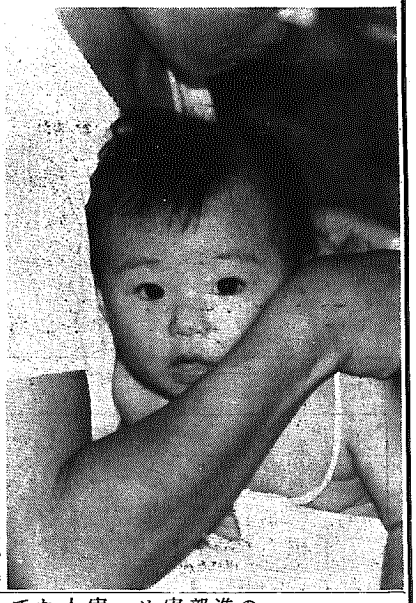
三才児及び乳児検診結果について



八月に行なった検診の結果次の事柄に気づきましたので、今後の育児の参考にして頂きたいと思います。

・ミルクで育てる方が増えてきましたが、ミルクには伝染病に対する免疫がありません。少なくとも四ケ月迄は、母乳をのませるようにしましょう。

・夏の検診になると消化不良がめだちます。スイカの汁ばかりのませずに、野菜のすりつぶしや、豆腐、フなどを少しづつ与えるようにして下さい。

・離乳の始まらない四ケ月頃迄は発育が良く、八ケ月頃から一年位になると次第に発育が悪くなります。これは正しい離乳食の与え方をしていないことにあるので、気をつけて下さい。離乳期間は根気との斗いです。面倒くさがっては子供は大きくなれません。

・オムツは、ぬれたらすぐとりかえて下さい。清潔好きな子供に育てるためにも必要です。

・三才は一生の中で心身共に一番発育の良い時で、特に知能の面で最も著るしい時といわれております。何でも不思議に思い、何でも知りたがる、この気持をのばしてやるのが親のつとめです。一口にいえば、しつけの大切な時で、うるさがらずに子供の知識欲を満たしてやると同時に、きびしいしつけの必要があります。

検診の場で何を聞かれても返事をせずモジモジしている子供、親にしがみついて離れない子供は、育て方に問題があります。どこの誰にでも、必要な返事などしっかりできるよう。なるべく大勢のお友達と遊ばせるようにして下さい。

又、悪いことをした時は頭からどならずに、子供が納得できるまで、良くいいきかせて下さい。

子供だからと甘やかしたり反対に暴力をふるったりせず、親子で話しあい、お互いに理解しあえる関係にしてゆきましょう。

・虫歯が多すぎます。子供のオヤツは、大人の食事と同じですから、アメやチョコレートばかりを与えずに食パンにバターをぬったものや、牛乳、果物など、栄養のあるものを与えて下さい。

又食事のあとは、うがいの習慣をつけることも大切です。

1. 乳児検診

受診率	発育 上	発育 中	発育 下	指導のある必要児 下痢	指導のある必要児 とびひ	指導のある必要児 ヘルニア	指導のある必要児 発育不良
53人（80.3%）	26	22	5	1	1	1	5

2. 三才児検診

受診率	発育 上	発育 中	発育 下	虫歯のある者 人数	虫歯のある者 1人平均虫歯数	指導のある必要者 皮膚疾患	指導のある必要者 発育不良
49人（86%）	17	22	10	44（89.8%）	5.6本	3	1

!! 十月 保健衛生行事予定 !!

十月は秋季大清掃の実施の月です。区長公衆衛生推進委員の方を中心にして各部落ごとに一斉に大清掃を実施し徹底するようにつとめましょう。

レントゲン検診を中旬に実施します。通知のあった人及びまだ今年一度も受けたことのない人は必ず受けて下さい。

小児マヒの予防接種を行ないますが該当者は次のものです。

第一回目42・2・1～42・6・30

第二回目41・7・1～42・1・30

該当する乳児の居る家庭では忘れずに予防接種を受けさせて下さい。

月日	行事内容	場所
10・11	百日咳ジフテリア予防接種午後一時三十分～二時	問瀬支所
10・11	〃	岩室支所
10・12	〃	本庁
10・13	レントゲン検診午前十時～十二時	和納八幡神社
10・13	〃	本庁
10・14	午後一時～三時	問瀬小学校
10・14	〃	石瀬坂田屋
10・14	午前十時～十二時	岩室公会堂
10・16	〃	夏井公会堂
10・16	午前一時～三時	高畑公会堂
10・17	〃	岩室中学校
10・17	午前十時～十二時	岩室駅前
10・17	午後一時～三時	本庁
10・18	〃	本庁
10・18	午後六時八時	本庁
10・18	〃	本庁
10・24	小児マヒ予防接種午後一時三十分～二時	本庁
10・26	妊婦検診午後一時～三時	本庁
10・27	乳児検診午後一時三十分～二時	本庁

新刊図書案内

婦人の皆さんに推薦する本

有吉佐和子著『華岡青洲の妻』

嫁と姑の確執は、今に始まったことではない。だが有吉佐和子の「華岡青洲の妻」は嫁と姑が、それぞれ才色兼備の女性であるだけに、その確執は陰にこもって、怖ろしいものを感じさせる。華岡青洲は、江戸時代の末期に活躍した名外科麻酔薬と麻酔による外科手術とを発明して、一躍その名を謳われたが、その生体実験にあたって、母と妻とが、わが子、わが夫の愛の優位を占めたいばかりに、冷戦を展開する。表面に出ない戦いだけに、世間の人にはわかない。これこそ青洲の画期的な実験に身を捧げる母や妻の行為を美談としてうけとめている。しかし母と妻の本人たちはもちろん、青洲も、青洲の妹たちも、その間の事情は、わかりすぎるくらいわかっている。口にも出さず身ぶりにもあらわさず、じっとそのあらそいを見詰めている。これも並たいていな心づかいではなかっただろう。この間のいきさつを有吉佐和子は彼女一流の才筆でひたむきに書き綴っている。

編集日誌

○月○日

集中豪雨の中、タイピスト嬢と分水町役場に出張、ビショヌレで到着、直ちに用談に入る。外は雨が降り続いている。何んとなく庁内がザワツイている。水害対策本部が設置されたとのこと。この場合、長居は失礼と思い早々に引きあげる。吉田駅で、乗合せの時間に、冷たいものでもと思い街に出る。駅前一面の水びたし、これは大変、村の方も水害対策本部が設置されていることだろう。……水害写真の取材しなければと思い直ちに引き経す。庁舎につくや、会議の疲れで雨の中飛び出す元気なし。とうとう今月号は水害状況の記事掲載することできずこんなことでどうする。ガンバレ。

○月○日

読書の秋、研修で出張、旅行カバンの中に「華岡青州の妻」「白い巨塔」を忍ばせる。車中、講義中と読みまくる。白い巨塔は現在社会問題となっている。医者のインターン制度と、誤診問題と裁判をめぐる争いを現在の日本に於る状態を描き、結末は読者の判断に訴えている。「この小説の社会的影響を考えて、作者はもっと社会的責任をもった結末にすべきだ」との声もあるとのこと。広報「いわむろ」も今後皆さんのマの声を取り入れ、良否は村民の判断に待つという記事も掲載したい。

村政とあなたを結ぶかけ橋広報『いわむろ』